

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100442		
法人名	株式会社アルカディア		
事業所名	認知症対応型共同生活介護ハピユシ		
所在地	沖縄県那覇市松尾2丁目17番45号		
自己評価作成日	令和4年11月25日	評価結果市町村受理日	令和5年 4月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4790100442-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和4年 12月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が家庭的な雰囲気の中で共同生活を送りながら認知症の進行を予防できる環境を職員と一緒に作っています。創作物の掲示や日課として観葉植物の世話や観賞魚の世話。イベント予定表での告知とイベント後の写真掲載など日常で行った活動を振り返ることで認知症を予防しながら共同生活を支援しています。又タブレット端末で生活記録を入力することでデータ化し病院受診等での活用も行っています。
--

事業所は医療法人が経営するサービス付き高齢者住宅やデイサービス等が入る複合施設の2階にあるグループホームである。近くにある同一の医療法人のクリニックと連携が取られており、令和3年11月と令和4年8月に3人の看取りを実施している。終末期の場合は家族が利用者との残された時間を大切にできるよう毎日面会を可能にして、利用者や家族の意向を尊重した取り組みがなされている。コロナ禍の中、外出に制限がある中でも住み慣れた近くの商店街や農産物市場に買い物に出かけるなど利用者のなじみの関係を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日：令和5年 3月31日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を見やすい場所に掲示して、その理念を基に入居者様が住み慣れた地域の一人として過ごせるよう取り組んでいます。	理念は「人格の尊厳」、「地域交流」、「技術向上」の3つを掲げ事務所に掲示し、常にアットホーム、家庭的な雰囲気過ごせることを目標にするとともに傾聴に努めている。「自分でできることは自分で」を実践するため、毎週日曜日のおやつ作りでソーメンチャンプルーの材料の準備から炒めるまで一連の作業をやってもらっている利用者もいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で地域交流室の利用やボランティア活動が出来ておらず地域とのつながり、交流は出来ていません。	コロナ禍以前は地域交流室を地域のサークル活動に場所提供していたが、現在は利用者の家族以外は外部の出入りを禁止している。地域の子ども食堂に何かできることはないか声掛けをしているところである。近隣にある有料老人ホームと災害時の協力について話し合いをしているが、コロナ禍で話し合いが中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で交流機会がなく地域貢献など実施出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議は事業所内、職員のみでの開催が多く、構成メンバーでの開催は昨年12月に1回開催、今年10月にリモートでの開催が一回のみとなっています。	運営推進会議は年6回定期的に開催されている。コロナ禍のため、事業所職員のみでの開催が多いが、行政や知見者、地域代表、家族等へは事前に電話で意見を聞いている。会議録は郵送されている。内容は利用状況、行事活動、事故報告、研修、苦情受付状況、外部評価報告等となっている。議事録の意見交換等の記録方法の工夫に期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ちゃーがんじゅう課との連絡はメール、電話で行い必要時には直接相談等を行っています。	市や保健所との連携は、コロナ関係の連絡調整やメールで研修案内等があり、運営推進会議の委員から連絡がある。生活保護受給利用者の訪問歯科の承諾について電話でやり取りし、担当ワーカーが年1回訪問がある。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和5年 3月31日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会や身体拘束適正化委員会の議事内容の報告など行い、身体拘束についての理解を深め、さらに入居者様の情報を共有することで抑制しないケアを行っています。	身体的拘束等の適正化検討委員会は法人として3か月に1回定期的に開催されている。指針や基本方針が作成されている。会議録は職員のサインで周知が図られていることが確認できた。研修も実施されている。リスクに関する説明は入居時に行われている。複合施設の玄関に防犯対策としてカメラが設置されている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行い虐待に対する知識と理解を深めるとともに入居者様の情報を共有することで虐待防止に努めています。	虐待防止については権利擁護や認知症の理解、認知症多職種連携について研修が実施され理解を深めている。職員のストレスチェックが法人で実施され相談窓口は施設長となっている。不適切な言葉遣いについても情報を共有しながらケアに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会で成年後見制度を理解すると共に制度利用者に対し後見人との情報共有を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約につて重要事項説明書及び契約書の読み合わせによる説明と承諾を行い契約に関しての問い合わせには随時対応できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談の問い合わせ、意見書箱の設置を行い、いつでも意見、要望が出来るようにしている。さらに、ホームページで情報公開が出来るようにしています。	離島から面会に来る家族があり、土、日でも面会ができるようにしている。家族から「歩かせてほしい」との希望があり、生活リハビリで施設内を歩行するなどしている。日曜日のおやつ作りのメニューを利用者の意見を反映して決定する等利用者の声を聞くようにしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和5年 3月31日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、カンファレンス等で意見、要望の提案を聞く機会を設け運営に反映出来るようにしています。	職員から夜勤を1人でするのが不安なので同施設内にあるサービス付き高齢者住宅職員との連携ができないかとの意見があり、話し合いの結果、見守り等について協力体制が取れるようになっている。車いす利用者が増えたことで古い車いすの修繕か、新たに購入すべきかで検討の結果、希望していたリクライニング車いすの購入が決まった事例がある。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を踏まえての勤務表作成や年5回以上有休所得、年一回の昇給、皆勤手当等を支給するとともに残業しない職場作りに努めている。職員のハラスメント対策では勉強会や面談等を行ないメンタルケアに努めています。	就業規則が整備され、育児休暇や介護休暇等及びハラスメント対策が整備されている。年休の年5回以上の取得や資格取得の支援として費用の一時立て替え、研修等費用の補助なども行われている。残業をしないように努めるなど働きやすい職場環境づくりに努めている。就業規則にハラスメントに対する罰則規定等の追加が望まれる。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会が多いが他部署での勉強会参加や看護師・柔道整復師など専門職の講習会依頼などを行い資質向上に努めている。施設外研修へも参加できるよう勉強会案内パンフレットを掲示し参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の訪問交流はコロナ渦で出来ていないが運営推進会議のリモート参加や医師会主催の研修で他事業所との意見交換は行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望、希望を傾聴しこれまでの生活習慣を継続していただきながら集団生活が送れるよう支援しています。また、住み慣れた環境作りをご家族と協力して作り安心して生活が出来るよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和5年 3月31日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族との面談で要望、希望を聞きご本人様が安心して生活が送れる様支援しています。また入居後も情報共有を行い電話や来所時に近況報告を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	かかりつけ医の紹介や訪問歯科など入居時に必要と思われるサービスが利用できるよう、ご家族との話し合いで決めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に花の手入れや家事など一緒に行う事で従事者と要介護者の関係が暮らしを共にする者同士の関係になるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話で近況報告をしたり、食欲が低下している場合はご家族に協力していただき好きな食べ物を持ってきてもらうなど本人とご家族の絆が途切れないよう支えています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はあるも、ご家族以外の面会も出ています。又 住んでいた地域や思い出の深い場所の動画を観てもらうなど支援しています。	利用者の約半数は地域の方で、馴染みのあるサンライズ通りや農連市場へ買い物に出かけるのを支援している。鮮魚店を営んでいた利用者は海の風景や出身地の大綱引きの動画を鑑賞してもらうなど関係が途切れないように努めている。友人が週1回訪ねて交流を深めている利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和5年 3月31日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し関わり合いが円滑に行えるよう食事の席やレク活動の席を調整しながら支援、見守りを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族から困っていることや相談等があった場合は必要に応じて対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の行動や言動、関わりの中で思いを傾聴し希望や意向の把握に努めています。また知りえた情報はカンファレンス等で情報共有しご本人本位のケアが統一出来るよう努めています。	思いや意向の把握については、ショートカンファレンスで情報を収集しケアに反映させている。ある利用者には趣味の書道を活かして職員の名前等を書いてもらい掲示している。月数回の映画鑑賞会では利用者の意見を反映して時代劇や洋画、アニメ動画等の観賞を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやご家族からの情報、ご本人の話を傾聴し知りえた情報が生活支援に活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の過ごし方、健康観察、行動観察を行いケース記録として情報が共有できるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和5年 3月31日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録やカンファレンスを基にご家族、関係者との担当者会議を開催しサービス計画書を作成しています。状態に変更があった場合も情報収集し計画書に反映出来るようにしています。	介護計画はアセスメント、課題の抽出、介護計画書の作成、担当者会議の開催、モニタリングと一連の流れで作成されている。計画作成担当者は週1回、月1回の会議の中で利用者の状況を共有して短期目標に反映している。介護職員はタブレットで介護計画を確認することができる。入院等で状態に変化した場合の見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきをケース記録に記入し職員間で情報共有を行っている。又週一回のショートカンファレンスで話し合い、参加出来なかった職員にも議事録を読んでもらい統一したケアが出来るとともに計画書の見直しも行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態、変化に対応できるよう朝礼やミーティングで情報共有を行なっている。ご家族からのニーズには可能な限り取り組めるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は受診時の介護タクシーなど限られた資源の活用のみおこなっています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は本人、ご家族の要望に沿って選択している。受診時は生活記録のデータを情報提供を行なっています。緊急時、協力医療機関への相談・受診は職員で対応するなど適切に医療を受けられるようにしています。	馴染みのかかりつけ医を継続している利用者は3名で、家族が受診対応をし、口答で受診結果の報告を受けている。その他の利用者は、契約時に家族等と相談して協力医に変更し、職員が受診対応をしている。急変時等は、協力医が往診をすることになっている。同一建物内に勤務する看護師が、週1回の健康チェックや情報提供書の作成等を行い、主治医や職員と連携して健康管理を行っている。24時間オンコール体制である。8名の方が訪問歯科を利用している。利用者は、特定健診等の健康診断を受けている。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和5年 3月31日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や健康観察を基に事業所登録の看護師に相談・助言を受けている。又、施設看護師にもオンコールや状態変化があった場合に随時相談出来るような体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のサマリー作成や入院中の状態確認、退院時の受け入れ態勢について病院関係者と電話で情報共有しています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に緊急時の意思確認も文書で行っています。又、定期的に変更がないか確認し、状態変化がみられた場合は、かかりつけ医へ相談しインフォームドコンセントをあらためて行なっています。	重度化や終末期に向けた方針については、契約時に利用者や家族に説明し、「急変時や終末期における医療等に関する意思確認書」等を提出してもらっている。状態が悪化した場合は、改めて家族と話し合い、医師とのインフォームドコンセントを図り、家族等の意向や要望に配慮している。コロナ禍の看取りの実施時は、遠方からの家族の面会等について検討し直し、対応している。職員は看取りケアについての勉強会を実施し、「お別れ」の場面についても話し合っている。1年余の間に3名の方の看取りが行われ、グリーフケアにも努めている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時フローシートに沿って連絡するよう指導と那覇市消防局による心肺蘇生の勉強会も行っています。	急変時や事故発生時に備えて、各種対応マニュアルや「緊急時連絡フローチャート」を整備し、職員の周知を図っている。職員は心肺蘇生法の勉強会を年2回実施し、事故発生時の初期対応等についても学習している。事故発生後は、報告書を作成し、再発防止のための検討会議は、週1回のショートカンファレンスの中で行っている。損害賠償保険に加入している。再発防止の検討会議の早い実施に期待したい。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的に実施している。	避難訓練は年2回実施しており、令和4年3月夜間想定訓練実施、12月昼間想定訓練を行う予定。感染症業務継続計画で対策本部メンバー、連携及び協力業者の策定は出来ているが計画書を元に職員の訓練は出来ていません。	昼夜想定避難訓練を毎年2回実施し、届出書や実施計画書、写真が綴られている。近隣の診療所と訓練の実施に際する支援協定を結ぶ予定があるが、コロナ禍で中断しており、地域住民への連絡や協力依頼も控えている。火災や地震、台風等の災害対策マニュアルを整備し、利用者と職員の3日分の水や食料を備蓄し、自家発電等も備えている。災害時やコロナ発生時のガイドラインをもとに、それぞれの業務継続計画の作成に取りかかっている。避難訓練実施後は、総括を行い、実施報告書を作成することに期待したい。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和5年 3月31日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊厳とプライバシーの確保を損ねないように言葉使いに気を付けたり、排泄失敗があった場合でも自尊心を傷つけないよう支援しています。	職員は、認知症ケアや高齢者ケアの技術や資質向上に努め、常時勉強会を実施し、権利擁護についても学ぶ機会を設けている。利用者への声かけや言葉遣いに配慮し、名前を呼ぶ時は「さん付け」とし、排泄支援時はドアを閉めて対応している。「倫理規程」に利用者や家族の権利が明記され、入職時に守秘義務について周知し、利用者のプライバシーの確保に努めている。個人情報保護方針や利用目的について説明し、同意書を取っている。氏名や写真、映像等の使用についても確認し、方針等は、掲示している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう個々の能力に合わせ入浴の着替えの準備や家事手伝いをしてもらっています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿ってくつろげる場所にいてもらい食事の席も好きな所に座れるよう配慮しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔、訪問での散髪、入浴後のブラッシングなど支援しており、衣類も着慣れた衣類をはいてもらっています。			
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が考えているが食事の準備や片付け、食器洗いなどは一緒に行っています。	朝食は職員が作り、昼食と夕食は法人厨房からの配食を利用している。利用者に食べたいものを聞き、おやつ作り(毎日曜日)でソーミンチャンプルー等を一緒に作っている。青果店で買い出した数種類の果物を盛り付けて提供する「フルーツま～さんデイ」を2週間に1回行っている。利用者は味噌汁をよそったり、食器洗い等片付けに参加している。週3回、朝食にオートミールを食べる利用者や家族に好きな物を差し入れてもらう利用者もいる。職員は利用者と一緒に食べていないが、昼食を食べた職員が評価表を給食委員会に提出し、献立や食事支援の改善に活かしている。正月には行事食の他にぜんざい等も提供している。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和5年 3月31日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総カロリーは栄養士が決めており、食事量を記録すること、体重測定で栄養バランスを把握している。水分摂取はお茶のみでなくコーヒーや紅茶、ORS、水分補水ゼリーなどを飲んでもらい一日の目標水分量が達成できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科によるブラッシング指導も受けながら毎食後の口腔ケアは実施出来ている。ご自分で歯磨きをする入居者にも毎食後、口腔ケア促しと声掛けを行っています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄認識の低い入居者には時間誘導行い、夜間は個別にオムツ交換時間を設定し適正な使用に努めています。	利用者一人ひとりの排泄パターンは、排泄記録をもとに把握し、利用者の状態や表情等を見ながら、尿意の訴えない方も、その人に合った時間に声かけや案内をしている。日中は、7名の方にトイレ排泄を支援し、夜間はポータブルトイレの使用も支援している。排泄の失敗時は、利用者の自尊心を傷つけないようさりげなく対応するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操への参加や促し、朝食時の牛乳・ヤクルトの提供水分補給で便秘予防は行っている。個々の排便状況に合わせて緩下剤の調整も行っています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は固定されているが入浴時間は一日を通して入れるようにしている。又、入浴日に入ることが出来ない場合や拒否があった場合は翌日に変更するなど柔軟に対応しています。	入浴は、週3回、午前中を基本とし、利用者の希望等によって午後の入浴も対応している。自分で行える方は見守りを行い、3名の方は2人介助で支援している。同性介助を希望する利用者にも対応している。入浴後に、手作りのORS等の飲み物を提供し、入浴の楽しみや爽快感に繋げている。整容室には、着替え等が置きやすいように棚と籠を設置している。	

自己評価および外部評価結果

確定日：令和5年 3月31日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に約一時間の午睡を促し、就寝ケアは本人に就寝時間を確認するなど意思を尊重しながら支援しています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の薬効についてはミーティング、朝礼などで説明し理解した上で服薬介助ができるようにしています。又、変更や調整があった場合でもその都度、情報提供し観察が出来るようにしています。	職員は、利用者一人ひとりの服薬内容等について定期的にミーティングや申し送り等で確認し、共有している。薬の受け取りや管理、配薬等は主に看護師が担当し、与薬や服薬前後の確認は職員が行っている。誤薬発生時は看護師や医師に確認し、適切な初期対応に努めているが、誤薬についての職員の共有方法が記録からは確認できなかった。	具体的な服薬手順や誤薬発生時の対応等も明記した服薬支援マニュアルの見直しが望まれる。再発防止の検討会議の早めの実施にも期待したい。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や興味関心ごとを聞き取り、趣味動画を観てもらったり、生け花を活けてもらったり、家事手伝いしてもらったりと無理のない範囲で行っています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	集団での外出、地域の方とのイベント参加支援は出来ないも屋上テラスでレクをしたり日光浴をしたりしています。個別では職員と一緒に近くの青果店で買い物をしたり、ご家族の方が病院受診後に昼ご飯を食べたりしています。	屋上テラスでの活動や外気浴、ベランダの花や野菜のプランターの見学、ネギ等の野菜の収穫を支援し、全利用者の気分転換ができるよう努めている。青果店へ野菜や果物の買い出しに出かける利用者がいる。コロナ禍の前は、釣りが好きな利用者を海へ連れて行ったり、農連市場での買い物や近所の商店街への散歩、美容室の利用も支援していたが、現在は控えている。ドライブ等、外出支援の再開について検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に金銭管理はしていませんがご家族から小遣い程度のお金は事業所で預かり、嗜好品（飲み物）等は買っています。又、日用品も（歯磨き）等も購入しています。		

自己評価および外部評価結果

確定日：令和5年 3月31日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があればいつでも電話できる環境は作っています。又ご家族からの電話も出来るだけ本人に繋げるようにしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間コーディネートは入居者に癒しを提供できるように配慮しており現在まで苦情等はありません。冷暖房の調整は入居様に確認しながら調整しています。	共用空間は、利用者が居心地よく過ごせるよう季節に応じた環境づくりに配慮し、温度や採光の調整を行っている。事務室や対面キッチンから、リビングの様子が見守れる配置になっており、組み合わせが可能なテーブルや大きなソファ、1人がけソファ、イス、本棚、観葉植物等を配置している。ベランダには花や野菜のプランターが置かれている。リビングでは、10日毎に映画鑑賞会があり、童謡・民謡歌会も開催されている。クリスマスの時期には、窓にイルミネーションを飾り、近隣住民から好評を得ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	固定されたテーブルの座席は無く自由に選択できます。又、ソファで入居者様同士で座ったりと自由に過ごせるよう配慮しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に居室に使い慣れた家具の持ち込みもお願ひしていますが理由があってもって来れない方などもおり家具の無い方が多く見受けられます。代わりにレクで創作した物をはったり、誕生日写真をはったりしています。	居室には、ベッドやエアコン、洗面台、タンス、テレビ回線、ナースコール等が設置されている。利用者は、寝具や収納ボックス、写真、自作の飾り物等を持ち込み、すっきりとした部屋づくりをしている。掃きだし窓からミニベランダに出られる造りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室に案内版を置き迷うことなく利用できるようにしています。希望があれば居室入り口に名前の掲示もしています。		